



上方講談師・旭堂南陵先生と楽しむ 大阪桜物語・トワイライト水陸両用バスツアー

日時：2013年4月14日(日) 午後5時～7時 陸上(約60分)＋水上(約30分)＝約90分間

水陸両用バス初体験！！梅田の新阪急ホテル1階の兜前に午後5時前に集合。東日本大震災による原発事故の為に、福島県から大阪に避難されている加藤さんと望月さんの2家族をご招待し一緒に楽しむことができた。先ずは、3月28日に搬入された新車の水陸両用バスの前で集合写真！



全長約12m、全幅約2.5m、全高約3.7mm、車輪とスクリューを備え陸と水上を航行できる水陸両用バスへ、5段ほどのタラップを上って搭乗。座席につくと「バスが出るぞ！」と参加者の掛け声とカランカランとベルが鳴らされ、日曜日の大阪駅界隈を流れる人々の流れの中を水陸両用バスの出発！！で、大きく開かれたバスの窓は手すりのような枠があるがだけで、ガラスがはめ込まれていないので、まるで御堂筋パレードでみたことがあるプロムナードのようなオープンカー。ド派手で大きな水陸両用バスは人々の好奇の目を引き、中にはバスには手を振る人もいて思わずこちらも手を振りかえす。特に信号待ちでは横断歩道で足止めされた人は「何これ？」「これが水陸両用バス！」の視線。それが子どもだったら間違いなく手を振るので、バスに乗っている人も挨拶返しのように手を振りかえす。更に、今回は特別に現在NHKで毎週水曜日の午後8時に放送されている「猿飛三世」のナレーション役で活躍されている上方講談師の旭堂南陵先生の声で名所案内。



このあたりもとは低湿地帯で、泥土を埋め立てて田畑地を拓いたことから「埋田」と呼ばれ、後世になって字面が悪いので産土神である綱敷天神社や露天神社に縁のある梅の字を埋田に当てて「梅田」とな

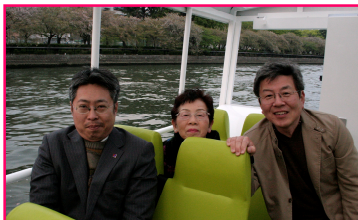
ったと言われている等など大阪物語も興味深い。日曜日とあって、人の流れの中をゆっくりと進むと、御堂筋を淀屋橋から本町に向かって南下。本町通りを東へ。大阪歴史博物館に大阪城を右手に眺めながら、天満橋へ。明治の風雲児・実業家藤田伝

三郎の屋敷跡の太閤園の前を通過、八重桜が満開の桜の宮へ。バスは速度を下げ、公園内へ。名残の桜を求めて公園内で賑やかに宴を開いている人がお出迎え。そこで、運転手交代。

さあ、バスから船へ！

大川に向かってスロープを慎重に下ると、ドボンと水しぶきをあげたかと思うと、パコッと川に浮いた！で、一瞬で船に大変身。ゆったりとバスは中之島に向かって進む。更にゆったりと春風共に宴会中の屋形船やクルーザーなどと川面を行き交う。

バスガイドさんが、「皆さん！川で手を振る時は、笑いながら手を振りましょう。怖い顔をして手を振ると、あああのバス川に流されている！」と警察に通報されてしまいます！！」乗っていると、すこぶる快適なのだが、確かに岸から見るとバスが川で流されている！！大丈夫？？の疑問符は払拭できない。おまけに、頭上に透明な屋根があるだけで、大きく開かれた窓は風も雨も吹き抜け状態。自然の息吹を十分に感じるができるが、雨天だと濡れ放題で、カップを車内販売をするとのこと。幸い、雨にも降られず天候にも恵まれ、春風に吹かれながら、ゆったりと造幣局やリニューアルされた大阪府下では最古の様式建築の泉布観のピンク色のバルコニーを愛でることが出来た。



約30分ほどの黄昏の川の散歩がおわり、ワッショイ！ワッショイ！の掛け声で川面から陸へ亀のように這い上がり、ここでまた運転手交代！橋の上から振り返るように、先ほど回遊した川面や、桜の宮の名残の桜並木を眺めながら大阪駅へ舞い戻った。水陸両用バスはオープンで、視線がかなり高い。風に吹かれながら眺めると不思議に見慣れた大阪の街が新しく見える。特に子供たちには、高層ビルに新緑の御堂筋、大阪城に八重桜が満開の桜の宮、おまけにバスに乗っているはずなのにそのままバスが船になった！とディズニーランドにも負けないほどの勢いで大はしゃぎ。可愛い笑顔がはじけ、歓声が響き喜んでいる姿が微笑ましいが、大人も旭堂南陵先生の名調子と共に暮れなずむ春の大阪を陸から川からゆったりと楽しむことができた。

